

研究分野	資源調査	部名	漁業開発部
研究課題名	日本周辺高度回遊性魚類資源調査		
予算区分	独法委託		
試験研究実施年度・研究期間	H. 13～H. 18		
担当	原子 保・吉田 雅範・小野 真弓		
協力・分担関係	(独)遠洋水産研究所		

### 〈目的〉

国連海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを完備するための調査を行なう。

### 〈試験研究方法〉

調査期間：周年

調査項目：漁獲月日、漁法、銘柄、体長、体重

市場調査（マグロ類）：岩崎村漁業協同組合、深浦漁業協同組合、三厩村漁業協同組合、大間漁業協同組合、尻芳漁業協同組合、六ヶ所村海水漁業協同組合、八戸みなと漁業協同組合、(株)八戸魚市場  
市場調査（サメ類）：八戸みなと漁業協同組合、(株)八戸魚市場

調査方法：マグロ類は1尾ごとのデータを水揚げ伝票から収集し、調査の手引きに基づき(株)日本エヌ・ユー・エスへ報告する。

### 〈結果の概要・要約〉

#### (クロマグロ)

漁法は釣りりと定置網漁業に大きく分け(表 1-3)られ、平均魚体重(表 1-1,1-2)は漁法により大きく異なっていた。定置網により漁獲された魚体は、月を追うごとに小型化していた。

魚体重を年別に検定(表 1-4)すると、同じ地先において有意差がある年とない年があり、クロマグロの魚体が年によって大きく異なっていることを示していた。

#### (サメ類)

約 207t の漁獲量(図 2)となり、漁獲量は減少傾向にあった。

### 〈主要成果の具体的なデータ〉

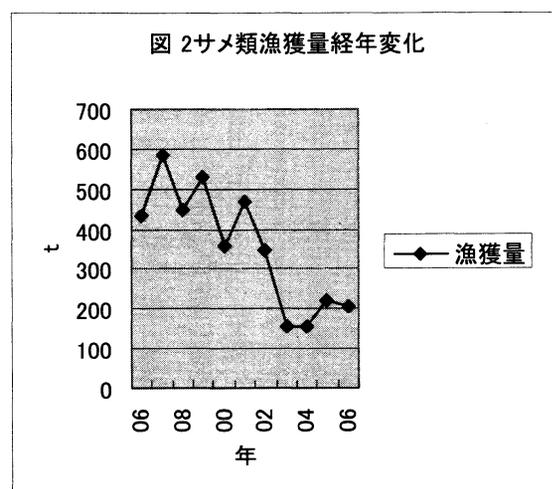
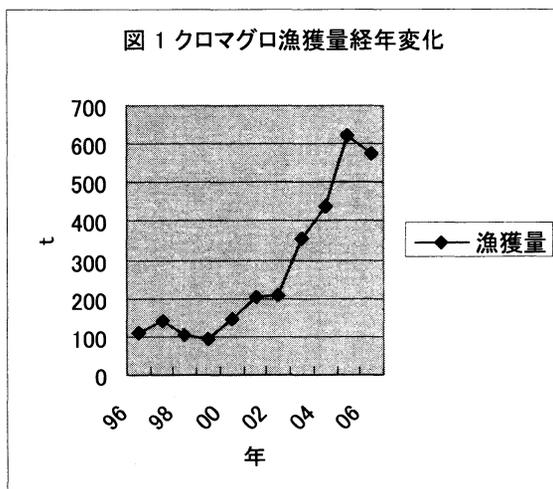


表1-1 クロマグロ月別・漁協別漁獲量(2006) 単位:kg

	岩崎村	深浦	三厩	大間	尻労	六ヶ所	八戸	計
1	0.0	0.0	1,561.0	212.4	3,028.6	0.0	42.8	4,844.8
4	0.0	0.0	0.0	0.0	40.6	0.0	0.0	40.6
5	1,426.0	506.3	0.0	0.0	342.0	45.7	76.4	2,396.4
6	50,207.9	11,627.0	0.0	0.0	2,258.5	4,840.8	1,031.9	69,966.1
7	15,532.4	4,956.7	597.8	196.0	16,904.7	1,568.0	379.8	40,135.4
8	2,499.0	19,276.3	22,109.0	31,281.3	713.8	158.5	427.0	76,464.9
9	1,665.2	47,196.6	25,190.5	85,381.9	213.9	0.0	78.4	159,726.5
10	21,639.1	5,417.1	26,348.0	55,963.9	306.6	22.9	745.4	110,443.0
11	9,905.5	5,935.5	10,205.5	31,744.7	991.6	6.6	435.2	59,224.6
12	0.0	309.1	10,164.0	20,232.8	20,636.5	46.9	114.6	51,503.9
計	102,875.1	95,224.6	96,175.8	225,013.0	45,436.8	6,689.4	3,331.5	574,746.2

表1-2 クロマグロ月別・漁協別漁獲尾数(2006) 単位:尾

	岩崎村	深浦	三厩	大間	尻労	六ヶ所	八戸	計
1	0	0	13	2	100	0	5	120
4	0	0	0	0	1	0	0	1
5	40	15	0	0	15	2	4	76
6	1,610	404	0	0	105	118	39	2,276
7	877	257	18	2	1,133	104	35	2,426
8	181	1,178	449	250	44	14	6	2,122
9	129	5,040	459	744	12	0	14	6,398
10	1,920	644	455	518	25	3	64	3,629
11	1,096	752	146	264	83	2	29	2,372
12	0	29	173	133	1,489	5	20	1,849
計	5,853	8,319	1,713	1,913	3,007	248	216	21,269

表1-3 漁法別クロマグロ漁獲量(2006) 単位:kg

	釣り	延縄	定置網	刺網	その他	計
1	1,561.0	212.4	3,071.4	0.0	0.0	4,844.8
4	0.0	0.0	40.6	0.0	0.0	40.6
5	506.3	0.0	1,890.1	0.0	0.0	2,396.4
6	11,627.0	0.0	58,339.1	0.0	0.0	69,966.1
7	1,622.8	196.0	38,096.8	0.0	219.8	40,135.4
8	44,288.9	12,652.4	19,106.6	0.0	417.0	76,464.9
9	67,963.8	46,000.8	45,722.1	39.8	0.0	159,726.5
10	55,030.5	54,301.1	402.3	29.6	679.5	110,443.0
11	35,657.7	22,133.5	998.2	0.0	435.2	59,224.6
12	14,573.1	16,132.8	20,683.4	0.0	114.6	51,503.9
計	232,831.1	151,629.0	188,350.6	69.4	1,866.1	574,746.2

表1-4 体重の平均値の差の検定(2 $\alpha$  < 0.05)

岩崎	2004	2005	2006	大間	2004	2005	2006
2003	2.408	0.016	1.124		* 2.734	* 10.361	* 4.284
2004		* 3.869	1.734			* 2.464	1.386
2005			0.681				0.545
深浦				尻労			
2003	1.307	0.046	0.309		0.801	0.209	1.342
2004		1.033	0.585			0.985	0.078
2005			0.297				* 5.368
三厩							
2003	1.932	* 3.146	0.647				
2004		0.881	0.031				
2005			0.354				

\* :有意

〈今後の問題点〉

西部海域におけるまき網漁業等による未成年魚の大量漁獲が、北部海域のクロマグロ成魚の資源量に影響を与えている。

〈次年度の具体的計画〉

データファイルに「日」を追加、はえ縄漁業は船名と所属県名を記載する等の変更があった。

〈結果の発表・活用状況等〉

平成 18 年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告会において報告。